

福 議 委 号
平成24年10月18日

福島町議会議長 溝 部 幸 基 様

経済福祉常任委員会
委員長 木 村 隆

所管事務調査報告書の提出について

本委員会は、平成24年9月19日福島町議会定例会9月会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第140条の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

調 査 事 件	(3) 総合計画に係る提言(平成21年10月)の検証について			
調 査 期 間	平成24年10月4日(1日間)			
出 席 委 員	(3) 10月4日(木)		(4) 10月4日(木)	
	委 員 長 副 委 員 長 委 員 " " "	木 村 隆 花 田 昌 平 沼 雅 加 藤 雅 藤 山 隆 平 野 隆	委 員 長 副 委 員 長 委 員 " " "	木 村 隆 花 田 昌 平 沼 雅 加 藤 雅 藤 山 隆
欠 席 委 員	なし		委 員 平 野 隆 雄	
委 員 外 議 員	議 員 "	熊 野 茂 夫 滝 川 明 子	議 員 "	熊 野 茂 夫 滝 川 明 子
職 務 の た め 出 席 し た 議 員	議 長	溝 部 幸 基	議 長	溝 部 幸 基
出 席 説 明 員	町 長 副 町 長 総 務 課 長 水 産 商 工 課 長 農 林 課 長 総 務 課 課 長 補 佐 水 産 商 工 課 課 長 補 佐	佐 藤 卓 也 竹 下 泰 弘 中 島 和 俊 近 藤 勝 弘 金 谷 栄 一 住 吉 英 之 川 合 力 哉	町 長 副 町 長 水 産 商 工 課 長 水 産 商 工 課 課 長 補 佐	佐 藤 卓 也 竹 下 泰 弘 近 藤 勝 力 川 合 力 哉
議 会 事 務 局 職 員	議 会 事 務 局 長 議 会 グ ル ー プ 総 括 主 査 議 会 グ ル ー プ 主 事	石 堂 一 志 前 田 勝 広 沢 田 元 氣	議 会 事 務 局 長 議 会 グ ル ー プ 総 括 主 査 議 会 グ ル ー プ 主 事	石 堂 一 志 前 田 勝 広 沢 田 元 氣

[委員会意見]

調査事件 3 総合計画に係る提言（平成 21 年 10 月）の検証について （平成 24 年 10 月 4 日調査）

本調査は、第 4 次総合計画後期実施計画策定に際し、同計画の基本目標並びに主要施策に対する議会提言を行い、平成 22 年 3 月に同計画を議決した経緯を踏まえ、行政との議決責任を分担するという観点から、基本目標並びに主要施策の取り組み状況や問題・課題を明らかにした上で、二元代表民主制の特性を活かし議会として計画の実行性を高める方策を検討するための調査である。

調査資料は、同計画のうち産業の充実に的を絞り、事前に本委員会が確認内容等を示し、行政の基本的な考え方及び実施状況等をまとめたものとなっている。

以下、調査結果の主な内容は次のとおりである。

【項目別の意見】

① イカゴロ（前浜イカ）の活用について

イカゴロの有効活用は福島地域マリンビジョン計画書において、「漁場環境保全・改善と循環型社会への対応」に位置付けられている計画である。しかし、昨年の調査意見を踏まえて漁業協同組合及び水産加工振興協議会と有効活用に向けた協議を進めていないことは非常に残念である。加えて、前浜イカの水揚げ数量や水産加工場の取扱い数量を調査（把握）していないことや磯がれの状況をきちんと捉えていないこと事態が、町が本事業を本当に推進する意思があるのか大いに疑問を持つものである。町においては、これらをきちんと整理した上で、漁業協同組合及び水産加工振興協議会と早急に協議を進め、一定の方向性を見出していきたい。

② ナマコ稚仔放流について

平成 23 年度の前浜産親ナマコを使用した人工採苗試験の状況は、知内町で採卵・沈着した 100 万個体をアワビセンターに搬入し、初期育成（1mm未満）の後 1mmから 2mmになったものを、玉ねぎネットに入れ海中で中間育成し、本年 9 月末時点では 2.5cm から 4cm 位に成長し約 2,500 個体が生存しているとのことである。今後、漁業協同組合と協議し放流する予定との説明である。本件に関しては、来る 10 月 19 日の本常任委員会で「ナマコ稚仔放流事業について」の調査があるので、その中でさらに検討を進めるものとした。

③漁業協同組合への支援について

漁業協同組合の組合員数の減少に伴い、全体の職員数に大きな変動はないものの、平成 21 年度と平成 23 年度を比べると正職員は 14 人から 10 人と 4 人少なくなり、臨時職員は 1 人から 4 人と 3 人増えている。また、平成 23 年度の業務報告書では、事業利益及び経常利益ともに赤字であり、累積債務は 66,460 千円（平成 23 年 12 月 31 日現在）となっている。大きな要因は水揚げ量の減少にあるが、この累積債務があることで、漁業協同組合は各種事業の展開（実施）に制約を受ける状況にあるとの説明である。町は漁業協同組合と緊密に連携を図りながら、累積債務の圧縮（整理）に向けたしっかりとした対策を検討していただきたい。このことが組合経営の安定化につながり、ひいては、組合員数の増と職員体制の充実に結び付くものと考ええる。

④国の農業支援策（予定）への対応について

平成 24 年度農林業担い手養成に決定した 1 名の対応については、農業技術や営農の指導だけではなく、地域住民や、若者との交流及び異業種間交流にもしっかりと取り組んで精神面のケアにも配慮(留意)していただきたい。

⑤シイタケの生産・品質向上について

当町の原木シイタケは栽培技術も高く、品質・味は他産地のものより優れており、市場等における評価は高く、その一部は横綱シイタケとして流通している。しかし、菌床栽培、中国産の輸入等による価格の低迷が続いており、販路拡大やブランド化に向けては、栽培方法等を盛り込んだパンフレットによる P R 対策等、成果につながる強力な支援対策をしていただきたい。

⑥やまゆりの普及と P R について

従来はやまゆりの P R は町ホームページや広報紙の花見時期の周知が主なものであるが、多くの町民や観光客が訪れているという状況にはないと考える。やまゆりは森林公園内に自生しているが、公園の頂上から見渡す町内の景色は素晴らしいものがあり、一人でも多くの町民にこの景色と美しい花の観賞を楽しんでもらうため、「やまゆりの日」のような特定の日を設定し、イベントを開催するような企画も一つのアイデアとして検討していただきたい。

⑦ 特産品を活用したブランド化について

当町には農業、水産及び林業でそれぞれに自慢できる特産品があり、その一部は既に一定のブランドとして流通しているものもある。しかし、単一商品だけでは経済効果も限定される心配があることから、色々なものを組み合わせたセット販売の工夫による経済の波及効果が期待できると考えるので、生産者を

含めて検討していただきたい。

⑧工場処理水の処理対策について

福島漁港内に流入する水産加工場の排水処理の行政指導には限界があると考ええる。福島漁港特定整備計画の寺の沢川河口切り替え工事計画は、このことも大きな要因の一つと考える。したがって、行政は関係機関に対して早期の事業完成に向けて、強い熱意を持ちより一層の要請活動をしていただきたい。

⑨スルメブランド化の取り組みについて

「日本一のスルメの町」として、横綱なスルメといかさ海峡スルメの二種類の販売をより拡大していただきたい。なお、いかさ海峡スルメの定義を緩和し、福島吉岡漁業協同組合に水揚げされたスルメとする検討をしていただきたい。

⑩ 名物となる食と道の駅について

道の駅の再構築を検討するに当たっては、これまでの施設整備の反省（検証）をしっかりと行った上で、経済効果と後年度のランニングコストを慎重に見極めて判断する必要があると考える。再構築の検討は、現在の道の駅の課題・問題点をきちんと整理し、検討会議に諮る手順を踏むことが前提と考える。また、公約にある「都会から人や企業を呼び込む対策」の具体的な施策の一つに、新たな道の駅整備の検討が盛り込まれていることから、町長はこのことに対する基本的な考え方をより詳しく説明することも必要と考える。

【意見交換の結果】

本委員会が町に確認を求めたの 10 項目のそれぞれの意見は前述したとおりであるが、水産分野の一部において調査項目の基本的なデータ把握がなされていないものや、現状をきちんと説明できない内容もあった。事前に確認内容等を示し、さらには昨年からの継続調査であることから行政の真摯な対応を強く求めるものである。また、町長には、当該 10 項目の課題等の解決と公約の実現に向けて、町のリーダーとしての積極的な発言を期待するものである。